

# 2020年度 大学入試合格実績 (令和2年7月1日現在)

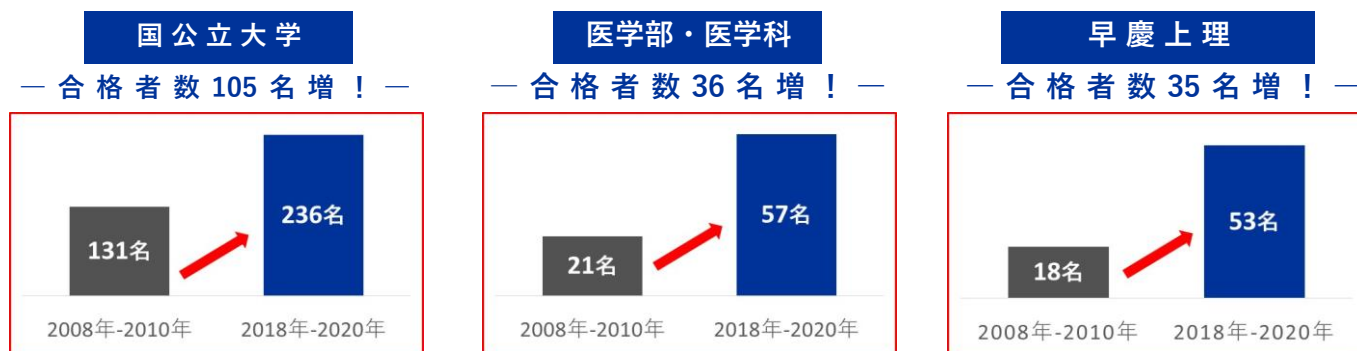
- Topic 1. 東大、京大、東工大など **最難関国公立大学** に **多数** 合格!
- Topic 2. 京都府立医などの **国公立大学医学部医学科** に **計6名** 合格!
- Topic 3. **早慶** (最難関私立大) に **計11名** 合格!
- Topic 4. **同立関関** の合格者総数 **25名増**! (2019年 157名 / 2020年 182名)
- Topic 5. **大学合格者** 総数 **136名増**! (2019年 709名 / 2020年 845名)

## 2020年度 大学入試合格者数一覧表 (現浪込み)

国公立大学		私立大学		医学部・医学科 (国公立)	
東京大学	1	早稲田大学	8	京都府立医科大学	1
京都大学	3	慶応義塾大学	3	滋賀医科大学	2
東京工業大学	1	東京理科大学	7	奈良県立医科大学	1
大阪大学	3	同立関関 ※1	182	浜松医科大学	1
北海道大学	1	MARCH (計)	18	札幌医科大学	1
東北大学	1	歯学部 (4大学計)	7	上記合計	6
九州大学	1	薬学部 (8大学計) ※2	47	医学部・医学科 (私立)	
神戸大学	2	獣医学科 (3大学計)	4	大阪医科大学	3
大阪市立大学	3	産近甲龍佛 (計)	251	関西医科大学	1
上記合計	16	上記合計	527	その他の医学科 (5大学計)	6
上記以外	57	上記以外	245	上記合計	10
<b>合計 (医・医含む)</b>	<b>73</b>	<b>合計 (医・医含む)</b>	<b>772</b>	<b>医学部・医学科 合計</b>	<b>16</b>

※1 同立関関の合格者数は薬学部を含めた数です。 ※2 薬学部の8大学には立命館大学を含めていません。

## この10年間で大きな飛躍! (3年間の合格者数) ※3



※3 2008年~2010年までの3年間と2018年~2020年までの3年間を比較しました。

# だからこそ東山

東山中学・高等学校は、「セルフ・リーダーシップ」を教育目標に掲げ、スポーツの盛んな進学校として、浄土宗祖法然上人の**仏教**の教えに根ざした人格形成を目指しています。

絶滅危惧種である男子校は全国の高等学校の約 2.2%、4887 校のうち 107 校にしか過ぎない。

(令和 1 年度文部科学省「学校基本調査」より)

その中で

東大生の 3 分の 1 以上が男子校出身者。

全国難関九国立大(東大,京大,北大,東北大,名古屋大,大阪大,九州大,東京工業大,一橋大)合格者の約 1/4 が男子校出身者。

学力面においては、女子よりも男子のほうに男女別学の利点大きい。男子より 1、2 年は精神的成長の早い女子がいる共学校では、女子がリーダーシップを取ってしまうため男子が表に出にくく、それが「男子から自信と成長の機会を奪っている」と指摘する声もある。

仮に共学であれば、肩身の狭い思いをしていたかもしれないオタク系の男子たちが、体育会系のスポーツマンたちと同じように自己表現できて、安心できる居場所を見つけている。

例をあげると

- ・「男子校は自由な雰囲気だ」と答えた生徒は「男子校は規則が厳しい」と答えた生徒の 2 倍
- ・「先輩や先生が優しい」と答えた生徒は「先生が厳しい」と答えた生徒の約 4 倍

## 男子校の魅力とは

- ・男子だけで伸び伸びできる。
- ・女子の目がないので無理に男らしく振舞う必要がない。
- ・男子校は、女子がないから勉強や部活に集中できる。
- ・失敗を恐れないムードがある。
- ・教師とストレートなコミュニケーションがしやすい。
- ・異性について、自分の役割について、自由な議論ができる。
- ・外向きのコミュニケーション能力が身につく。
- ・自分探しに集中できる。
- ・どんな男子にも居場所がある。
- ・徹底的にバカができる。
- ・男子のペースで待ってもらえる。
- ・異性への憧れや畏怖の念が深まる。
- ・一生付き合える友達ができる。

## 男子の成績は共学よりも良くなる

OECD(経済協力開発機構)が行う「PISA 調査」(学習到達度調査)というものがある。2006 年、ニュージーランドでは合計点の平均で女子が男子よりも 30 点高かった。その結果を受け、男女の成績を詳しく分析した研究結果が後に発表された。

「男子生徒の成績は、共学より男子校のほうが良好であることがニュージーランドの研究で明らかになった。オタゴ大学の研究所は、男子校と女子校、そして男女共学の学校に通う生徒や学生 900 人を対象に成績の比較調査を実施した。それによると、男女別学で中等教育を受けている生徒では、男子生徒の成績が女子生徒をわずかに上回った。一方、共学では女子のほうが男子よりも良い成績を収める傾向が顕著で、この傾向が 25 歳くらいまで続いた。研究をまとめたシェリー・ギブ氏は、『男女別学のほうが成績に男女差が生まれにくいという主張を裏付ける結果となった』と述べた。同研究は豪誌『オーストラリアン・ジャーナル・オブ・エデュケーション』に掲載された(ロイター通信、2009 年 8 月 25 日付)。

また、2009 年の PISA 調査の OECD 平均では、合計点の平均で 27 点、男子より女子のほうが得点が高いという結果が出ている。2000 年の PISA 調査では男女の得点差は 21 点であったのに、その後の 9 年間で差が開いている。これらのデータを見る限りでは、「男子より女子が優秀」というのは、世界共通の現象である。特に読解力に関しては、すべての国と地域で女子が男子を上回っており、男女間の得点差は平均で 39 点にもなる。2000 年以降、読解力に関する男女間の得点差が縮まっている国は一つもない。これには OECD も何らかの対策が必要だと警告を発している。PISA 調査では、読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーの 3 分野での学習到達度が測定されているが、それぞれの能力は独立しているわけではなく、互いに関連し合っている。特に読解力は学力の要であり、2000 年の調査でも特に注目されていた。そこにおいて、世界的に例外なく、明らかな男女の能力差があることは何を物語っているのだろうか。

## 男の子はなぜ女の子より劣るのか

2006 年 2 月 15 日付の『ニューズウィーク日本語版』に「男の子はなぜ女の子より劣るのか」という衝撃的なタイトルの記事が掲載された。同年 1 月に発売されたアメリカ版の「The Trouble With Boys(男の子たちの問題)」という記事の翻訳である。

「小学校で男子が学習障害とされる割合は女子の約 2 倍」「高校で学校が嫌いという男子は 1980 年から 2001 年の間に 71%も増えている」「30 年前、大学生に占める男子の割合は 58%だったにもかかわらず、現在は 44%になっている」など、学業において男子が苦戦しているというデータが示された。そして導かれた論旨は、1972 年に連邦政府が学校における男女の機会均等を法的に定めて公立学校での男女別学を禁止して以降、男女の発達や志向、得意分野の違いを無視してまったく同じ条件で教育されたことに問題があるのではないかと、むしろ女性向けの教育になってしまったのではないかと問うものだ。

同誌は、「脳科学ですべてがわかるわけではない」としながらも、「中学校においては、男性の性的な成熟は女性に比べて約 2 年遅れている」「脳の厚さは女性が 11 歳で最大になるのに比べ、男性は 18 カ月遅れる」「5 歳から 18 歳の男女に情報処理能力のテストをすると、幼稚園では男女の差はないのに、思春期には女性のほうが『速くて正確』という差が生じ、18 歳には再び男女の差がなくなる」など、男女の発達上の違いを科学的に指摘している。

(『男子校という選択』おおたとしまさ、日本経済新聞出版社)より